

地域がぎゅっとつまっている？（地域教育推進協議会「神明祭」・神明中）



↑開会宣言の様子

9月に開催された神明祭についてご紹介します。神明祭は3年ぶりですが、神明中学校区地域教育推進協議会となり「中学生地域おもてなし事業」として実施するのは今回が初めてです。

会場となる神明中学校に着くと、校庭、校舎内から活気溢れる声が聞こえてきました。地域の施設やスポーツ団体、学校支援本部等のブースからは、ボランティアの中学生と神明中の先生、地域の方が開店に向けて入念に確認をする様子や受付等に御協力いただいたPTAの方の姿、校庭や体育館では、合唱、合奏、ソーラン等の発表に向けてリハーサルに汗を流す児童やそれを温かくサポートする小学校の先生の姿が見られました。地域の方々には、当日に至るまでの準備や朝早くから設営等にもご協力いただき今日の神明祭を迎えられたのかと思います。

地域教育推進協議会会長の挨拶にあった「地域教育推進協議会は大人も子どもも活力ある地域づくりをするためにあります。主役は、次世代を担う児童・生徒の皆さんです。」という言葉がとても印象的でした。

その主役の一人でもある生徒会長の「地域への感謝の気持ちを伝えましょう、神明中生の本気を見せましょう。」という開会宣言で神明祭はスタートしました。

当日の神明中生の参加は156名でその内ボランティアで参加した生徒は約70名でした。例年より規模を縮小していることから、参加生徒数は少ないと伺いましたが、参加した生徒は、みんな意欲的に活動していました。

どのお店でも、今できることに一生懸命取り組む姿が見られました。体育館で行われた、近隣小学校の児童による発表では、司会進行を神明中生が務めていました。テンポのよい掛け合いが会場の温かい雰囲気をつくっており、参観者が笑顔を見せる様子が見られました。神明中の同窓会のブースでは、第1期~第73期までの卒業アルバムの写真が展示されており、幅広い年代の方が、それぞれの思い出話を花を咲かせていました。地域のスポーツ団体が担当するブースでは、ボッチャ体験と済美養護学校についての展示がされていました。その他にも、地域で活動する吹奏楽団との合同演奏が祭りに華を添えました。他にも3町会合同の震災救援所のミニ体験など神明中学校区を支える方々のブースが集まっており、さながら神明中学校区がぎゅっとつまった縮図のようなお祭りでした。

学校とは違う一面が見られた。
3年生の活躍の場が多くあり、
よくがんばった。（教員）

発表の場があってとても
よかった。（児童保護者）

飲食がなくても結構盛り上がり
ていて楽しかった。（卒業生）

震災救援所の煙体験や起震車などの体験型ブ
ースがよかった。（地域）

生徒の感想

めちゃくちゃ楽しかった。地
域の交流の場として神明祭を続
けたい。

たくさんの人に見てもらい、
吹奏楽団の方と一緒に演奏でき
たよかった。

開催する側でやっと参加でき
た。地域の方がたくさんきてく
れてうれしい。

体育館の出し物がいろいろ
あって見応えがあった。お店の
雰囲気もよかった。